

(様式5)

8 学校アクションプラン

令和5年度 魚津高等学校アクションプラン - 1 -	
重点項目	学習活動
重点課題	生徒が主体的に参加できる授業への改善、家庭学習時間の充実
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 生徒個々の進路希望がかなうよう学力の向上を目指し、授業の充実を図ってきた。互見授業 公開授業や授業アンケートを実施し、授業力向上に取り組んでいるが、授業を含め学習に対して受け身の生徒の割合が高いように思われる。 生徒には入学当初よりオリエンテーションなどを通して家庭学習の習慣を身につけさせる指導を行う。また、生徒の家庭学習時間や学習への意欲を把握し、面談や声かけによって、生徒一人ひとりにきめ細かな指導を行う。
達成目標	①授業力の向上 ア. 互見授業に参加した回数が年間2回以上である教員の割合 イ. 「授業に興味関心を持てる」と答える生徒の割合
	③1, 2年生の学習習慣 ア. 1週間の平均学習時間 イ. 学習内容を理解するために自分なりに工夫している生徒の割合
	ア・イともに80%以上
方 策	互見授業、公開授業、生徒による授業評価を実施する。実施後は、授業方法について教科部会で協議し、生徒が自主的、主体的に「もっと学びたい」と意欲を持ち、「深い学び」へと繋がるよう工夫をする。
	「学習実態調査」を実施し、担任が生徒の学習実態（予習→授業→復習のサイクルができているか）を把握し、効果的な面接指導を行う。 また、調査結果をもとに学年、各教科が共通認識を持って連携し、課題の出し方、取り組みせ方について工夫する。
達成度	ア. 互見授業の参加数集計結果（昨年） 97.2% (65.2%) イ. 生徒による授業評価の結果（昨年） 全体 84.2%(81.4) 1年 84.6%(76.2) 2年 理 84.2%, 文 87.0% (86.5) 3年 理 80.8%, 文 85.4% (86.6)
	・学習実態調査 年2回の平均（昨年） ア. 1週間の平均学習時間 982分 (1178分) 1学年 1,003分 (1,054分) 2学年 962分 (1,302分) イ. 自分なりに工夫している生徒の割合 32.9%(72) 1学年 26.5% (72.0) 2学年 38.4% (71.7)
具体的な取組状況	ア. 互見授業週間を中心に、ほとんどの先生方が目標を達成した。はじめは実際と報告（入力）の数値がかけ離れていたため、口頭により再度調査を行った。正しく現状を把握するには記録のとりやすさに工夫が必要であった イ. 平均をとると「関心を持てる」と答えられた科目は80%を超えるが教科・文系理系等、細かくみると差異がある。
	ア. 学習時間が1日平均2時間半ほどで、昨年度と比べて約28分減少している。目標の3時間半まで大きく離れている。 イ. 学習方法を自分なりに工夫している生徒の割合は大きく下がった。今回は「はい」と答えた人に「内容を具体的に教えてください」という項目を加えたため下がったと考えられる。 ・今回寄せられた工夫の内容を校内で共有することで、漫然と学習に向かっていた生徒や、なかなか学習に向き合えない生徒のヒントとしたい。
評価	B
	C
学校関係者の意見	互見授業の調査方法は自己申告でよいのではないかと。生徒から工夫の内容の聞き出し方は選択肢いくつかと「その他」の項目を設け、書き出させるとよい。選択肢を示すことで生徒にも工夫にこのようなものがあると気付かせることにも繋がる。
次年度へ向けての課題	互見授業のあり方についての教師側の意識として、授業のノウハウの共有と伝承という側面を持たせ、授業者の教科や年齢に拘らず、様々な教科の授業を見ることによって主体的・対話的で深い学びが実現しかつ教科横断的な授業の創造に繋がるようにする。

(評価基準 A: 達成した B: ほぼ達成した C: 現状のまま D: 後退した)

令和5年度 魚津高等学校アクションプラン — 2 —

重点項目	学校生活
重点課題	18歳成人に向けた、学校生活における意識の向上
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 本校の生徒は、全体的に真面目かつ素直であり、自分で考えて判断し行動できる力がある。様々なアイデアを生み出したり、工夫を凝らしたり、修正を加えたりする能力を潜在的に持っている。しかし、実際には多くの日課をこなす中で思考が働かせづらくなり、自ら考え、目的意識を持って行動する機会が乏しくなりがちで、指示待ちの生徒が少なくない傾向にある。 精神的に未熟な面を持つ生徒が少数ではあるが存在し、他者や全体への配慮、ルールの遵守において、思考・判断・行動が十分でないケースが見受けられる。
達成目標	<p>成人年齢の引き下げに伴い、</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 責任ある行動、自覚を高める意識を育む機会を設ける。 ② 1年間の学校生活の中で「適切な思考・判断・行動ができた」と感じる生徒を増やしていく。
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会、生活委員会を中心に、鍵かけ（自転車、ロッカー等）運動やあいさつ運動を行い、学校という共同体の中で目的意識を持って他者と協力することの大切さを考えさせる。 統一HRにおいて、自己と他者との「人権」や、様々な価値観や多様性を受け入れることの大切さを考えさせる。 始業式や終業式、学年集会等を通じて、「服装・頭髪・携帯電話・遅刻・駐輪」等、学校生活におけるルールやマナーを守る理由や意義について考えさせる。 交通安全教室、防犯教室、薬物乱用防止教室の実施やHR活動での「スマホのルール作り」を行い、「交通規則・SNS」等に関する法律を守る理由や意義について考えさせる。 年に2度、自己評価を実施し、(1)共同体における人間関係、(2)人権、(3)学校生活のルール、(4)法律遵守の4つの観点について、生徒一人ひとりの意識の改善・継続・向上を図る。 PTA総会や各学期保護者会等で、アクションプランの重点課題と達成目標について理解を求め、家庭と学校が連携する体制を整える。
達成度	<p>・「第2回 自己評価」で「できた+概ねできた」と回答した生徒と、「第1回 自己評価」との増減</p> <p>全学年【93%回答】+2% (1)93% <u>+11%</u> (2)94% +4% (3)92% +1% (4)95% +2%</p> <p>1学年【90%回答】+4% (1)94% <u>+11%</u> (2)94% +1% (3)92% -2% (4)94% <u>-2%</u></p> <p>2学年【97%回答】-1% (1)92% <u>+10%</u> (2)93% +1% (3)90% <u>-2%</u> (4)95% +0%</p> <p>3学年【92%回答】+3% (1)93% <u>+13%</u> (2)96% <u>+11%</u> (3)93% <u>+7%</u> (4)96% <u>+9%</u></p> <p>全学年における1年間を通しての成長の自己評価は、「できた」が65%、「概ねできた」が29%</p>
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 1学年(4月末)で、HRで生活委員が中心となってスマホやクラスのルール作りを行った。 1年生を対象に、「交通安全・非行防止教室」(4月上旬)、「薬物乱用防止教室」(7月初旬)を、魚津署から講師を招いて実施した。 全学年を対象に、1度目(9月)の「自己評価」を実施した。結果は予想以上に高かった。 全学年を対象に、「あいさつ・自転車鍵かけ運動」(9月上旬)を実施した。生活委員が中心となって「あいさつ・自転車鍵かけ運動」に関する短歌を募集し、優秀作品を掲示し表彰した。 2学年を対象に(12月初旬、家庭科)県消費者センター・県弁護士会から講師を招いて消費生活講座を行った。 全学年を対象に(2月初旬)「時間を守る大切さ」に関して全校生徒の意識向上のために、生活委員会で早起きクイズや短歌募集を行った。
評価	B
学校関係者の意見	消費者教育の実施やアンケートで正確な情報が得られるように改善があったのはよかった。携帯電話とくにSNSの好ましくない利用の増加は学習活動、生徒指導にもよくない影響を及ぼしている。強制ではなく自発的にその影響を回避できる生徒を育ててほしい
次年度へ向けての課題	生徒の規範意識、特に帰属意識を高め、学校やクラス全体を俯瞰する視点を持たせ、全体を意識した行動を行わせたい。また、スマホの使用、特にSNSの利用について家庭でのルール決めやクラスのルール作りを行い、そのルールを常に念頭に置いて行動するように促したい。

(評価基準 A: 達成した B: ほぼ達成した C: 現状のまま D: 後退した)

重点項目	進路支援	
重点課題	生徒一人一人が自己のあり方、生き方を考え、学習意欲を高める指導	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・全般的に進学に対する意識は高いが、大学進学のための目的や将来のビジョンが明確でなく、そのために具体的な進路目標の設定が遅い生徒が見受けられる。 ・生徒自身が自己の能力・適性を深く考えて進路目標を設定しているとはいえない面があり、漠然とした進路目標のため、自主的・意欲的な学習に結びついていない生徒がいる。 ・9割以上の生徒が国公立大学に進学を希望している。 	
達成目標	①進路指導支援全般と3年時の個別試験対策支援の満足度、充実度 (志望大学・学部・学科・将来の職業等の設定)	②国公立大学合格率 (国公立大学合格者数/国公立大学出願者数)
	卒業時の満足感、充実感を高める	合格率75%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・生活指導を基本とし、自学自習の力を養成する。 ・3年間を見通した進路指導計画を作成し実施する。 ・学習状況の把握を目的とした教科担当者を交えた学年検討会を開き、共通意識を持って学年及び全教師集団による指導を行う。 ・「生徒希望選択研修」や「進路探究」などを通して進路を考えさせる。 ・進路講演会や進路情報提供を充実させ、意欲的に学習に取り組ませる。 ・面接指導を通して、生徒理解を深めるとともに信頼関係を構築し、早期に進路目標を設定させることで学習意欲を高め、学習習慣を確立させる。 	
達成度	満足感、充実感は概ね高い。	合格率 63.4% (90/142) ※昨年度 前期終了時点 65.2% (88/135)
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの進路をより具体的に考えるきっかけとして進路講演会(1学年2回、2学年1回、3学年1回)を実施した。事後アンケートの結果として94%の生徒が「進路を考える上で大変参考になった」「参考になった」と答えている。 ・1学年全員で、8月に富山大学訪問を実施し、99%の生徒が「進学を考える上で大変参考になった。」「参考になった。」と回答した。 ・大学について理解できたと回答した。 ・生徒希望選択研修(2学年)では、文理別に2泊3日の日程で、大学、企業、施設見学・訪問を実施した。94%の生徒が「とてもよい」「よい」と回答した。 ・一人ひとりの進路希望に合わせた個別試験対策として各教科で添削指導を行った。86%の生徒が「大変役に立った」「役に立った」と回答した。 ・面接回数は88%の生徒が適切と回答。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路目標の設定、学習習慣の確立に向けて、面接期間などを設定し、学級担任による個別面接指導を実施した。 ・学習状況、進路志望状況の共有を図るため教科担当者を交えた拡大会議(1、2学年)を各1回および進路検討会(3学年)を3回実施した。 ・「進路のしおり」(1～3学年)、「受験のしおり」(3学年)を作成して、本校生徒の実態に即した進路指導を行った。 ・土曜補充授業を1、2学年各5回、3学年4回実施した。 ・「先輩に学ぶ会」、「合格者に学ぶ会」等を企画実施して、生徒の進路意識を高めた。
評価	B	未定 ※昨年度B(73.4 102人/139人)
学校関係者の意見	今後も魚津高校としてぶれない方針を大切に、母校に愛着と誇りを持ち、地域の子どものためになる高校であってほしい。	
次年度へ向けての課題	教科指導とともに進路についての悩みや相談に対する面談等、教師と生徒の関わりを大切に、一人ひとりに対応したきめ細やかな進路指導を行う。また、教師集団が生徒個々の目標を共有し、その実現に向けて学校全体でフォローをしていく態勢を強化する。	

(評価基準 A: 達成した B: ほぼ達成した C: 現状のまま D: 後退した)

重点項目	特別活動	
重点課題	生徒の自主的・自律的な活動の充実	
	① 生徒主体の学校行事の運営	② 部活動の活性化
現 状	・学校行事の運営が、感染症対策のために制約される中で、生徒の自主性や主体性が損なわれないように、活動内容を工夫している。	・生徒は、学習と部活動を両立させようと努力している。
達成目標	・学校行事に主体的に参加し協力したことに、達成感を抱いた生徒の割合。	・部活動に積極的に取り組んだ生徒の割合。
	80%以上	80%以上
方 策	・生徒が積極的に学校行事に参加できるように、生徒会が主体となって、できる限り意見を聞いて活動内容を工夫する。	・部活動に対する生徒の意識を高め、活動時間を有効に活用する工夫を促すことによって、部活動の活性化を図る。
達成度	※アンケート結果より ・学校行事に積極的に参加した生徒の割合 1年：88% 2年：89% 3年：89%	※アンケート結果より ・部活動に積極的に取り組んだ生徒の割合 1年：92% 2年：91% 3年：87%
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・球技大会については、昨年同様ありそドームを競技会場に加えて競技を分散させた。 ・体育大会については、通常形態にできるだけ近づけ、競技内容及び応援の形態を工夫した。コロナ禍前とほぼ変わらない状態にまで戻すことができ、生徒も活発に活動していた。 ・文化部発表会、弁論大会については、コロナ禍で変更した部分をもう一度見直し、コロナ禍前に戻した形で、ほぼ行うことができた。生徒が主体となる活発な行事となった。 ・ボランティア清掃については、清掃場所を昨年の学校敷地内から学校敷地外の清掃（魚津駅～学校周辺の通学路）に変更して実施した。部活動単位で参加を募集し実施したが、多くの部が参加し、通学路や学校周辺を清掃できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に部長を招集し、活動内容や活動環境について考えさせる機会を設けた。 ・運動部においては、今まで感染対策などで限られた活動だったが、日々の練習や大会においてもコロナ禍前に戻り、制約がなくなったことで活発な活動・活躍が多く見られた。 ・文化部においては、日々の活動や校内の文化部発表会だけでなく、校外での各種大会や展示発表会、また、高齢者施設等でのお茶会や校内コンサート、演奏会などを各部で企画し、工夫して校内外の活動を充実させていた。 ・全国大会出場者は、運動部が2名、文化部がのべ26名、北信越（北陸・中部日本）大会出場者は、運動部がのべ18名、文化部は8名であった。
評価	A	A
学校関係者の意見	現1年生は中学3年間をコロナ禍に過ごした。行事の全面解禁は待ちに待っていたはず。もう少し数字が高いかと想像していた。	特になし。
次年度へ向けての課題	行事の規模等、すべてをコロナ禍以前に戻し、コロナ以前のクオリティを超えるような行事を数多く執り行いたい。	より充実した活動ができるように、援助していきたい。

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状のまま D：後退した)

重点項目	その他	
重点課題	① 図書貸し出し冊数の増加	② 生徒保健委員会の活性化
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 読書の習慣が身につけていない生徒がいる。 学習や部活動に多くの時間を割く必要があり、図書館を利用したいと思っても来館できない生徒がいる。 2学期以降に3年生を中心に、小論文・面接のための資料探しや読書、また学習場所としての利用が増える。 教科の授業やHR、総合的な探究の時間等での閲覧室利用はあまり多くない。 保護者を対象とした図書館開放を、毎年数回実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> 清掃活動において、率先して活動を行う生徒が多い反面、取りかかりが遅く、指示待ちタイプの生徒も若干見られる。 学校保健委員会の発表までの準備過程で、委員全員が揃う機会が少なく、共通認識に基づいた委員の自主性が発揮されにくい。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> 全学年の平均貸し出し冊数3冊 	<ul style="list-style-type: none"> 保健委員が、美化週間に関するアイデアを出して実行する。 1回/学期 学校保健委員会による調査研究発表を行う。 1回(12月)
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 1年次の図書館オリエンテーションで図書館利用を促す。また、2年次にも図書オリエンテーションを実施する。 生徒の興味・関心をとらえた企画、展示、広報活動を工夫する。また、校外図書選定等を実施し、より生徒の読みたい本をそろえる。 小論文対策のレファレンス機能の充実を図る。 HR、総合的な探究の時間での活用を促す。 教職員に対して図書資料に関する情報を発信する。また選書に関わってもらう機会を設ける。 保護者の図書館利用を促し、家庭における読書活動の雰囲気醸成の一助とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 美化週間中に保健委員が教室を巡回し、清掃重点項目について、環境美化がなされているかを点検する。 保健委員が、テーマを定めてデータリサーチを行い、研究結果をまとめて、一般生徒や保護者にプレゼンテーションを行う。
達成度	<ul style="list-style-type: none"> 2023年12月31日現在の貸出冊数 全学年平均 3.8冊/人 (R4 3.4冊) 1学年 5.7冊/人 (R4 6.6冊) 2学年 4.5冊/人 (R4 2.3冊) 3学年 1.1冊/人 (R4 1.2冊) 	<ul style="list-style-type: none"> 環境美化の点検を、1学期(6月中旬)、2学期(10月下旬)、3学期(2月上旬)に実施した。 「目の健康」をテーマにした学校保健委員会を、12月に開催した。
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 1年次の図書館オリエンテーションでは、本を借りた後に再度本を図書館に借りに来ることを勧めた。また、昨年に引き続き、2年次の図書館オリエンテーションを行い、「情報を得るための本の読み方・選び方」をレクチャーして、自分の進路に関わる情報が得られる新書などを借りて読むことを勧めた。さらに、1学年の朝読書の取り組みや、授業での閲覧室の活用など、図書館に足を運ぶ機会を増やすための協力が得られた。 新たな取り組みでは、できるだけ閲覧室を使用して、HR時に「読書に関する活動」を行ってもらった。また、1・2年生に「読書メモ」を持たせ、読んだ本を蓄積するとともに、学期ごとにタブレットから読書アンケートに入力してもらい、魚高生の読書傾向を調査した。その後、各学年へのフィードバックも行った。さらに、1・2年生を対象に夏休みに「図書委員が勧める本」をクラス単位で読む企画を、書店の協力を得て実施した。 12月を本校の「読書強化月間」とし、図書委員が冬休みに読書をするを各クラスで呼びかけた。また、本を気軽に手に取ることができるように、1・2年の教室近くのホールで「出張図書館」を実施したり、貸出人数をクラスごとに競い、上位クラスを表彰したりした。 図書委員が主となって、「図書館便り(年5回印刷)」や「図書館報(年2回発行)」を刊行したり、「図書館イベント(年2回)」を企画・運営したりして、図書館活動や読書に対する校内の雰囲気を盛り上げた。 	<ul style="list-style-type: none"> 美化週間については、保健委員が担任に協力を仰いで、生徒に環境美化への意識を高めた。また、環境美化の点検基準を明確にして、できるだけ評価が公平に行われるようにした。美化週間後は、保健委員会でも振り返りを行い、次回への改善策を考えた。 12月の学校保健委員会の開催に向けて、保健委員は、最初に、松本医師の協力のもと、「目の健康」に関する全校生徒へのアンケートを実施して、生徒の実態を把握した。次に、調査結果をもとに、研究、考察し、4つの視点についての発表資料を作成した。聴衆が明確に理解できるよう、資料は、視覚的にわかりやすく構成し、発表は、簡潔かつ明瞭に行うことを心懸けた。また、体を動かすパフォーマンスなども行い、飽きがないような工夫をした。 結果的に、生徒のみならず、一般の人々の日常生活の改善に役立つ発表をすることができた。
評価	A	
学校関係者の意見	下の学年が多くの本を読んでいるのはまだ、心と時間に余裕があるからなのか。であるならばなおさら1年生の頃の読書習慣付けは重要ではないか。	特になし
次年度へ向けての課題	引き続き生涯にわたって読書の習慣が身につく働きかけを工夫したい。小論文のための資料としての本の活用を推進したい。	どうすれば高評価を得られるのか、保健委員による環境評価の基準を明確にし、生徒がモチベーションを高く保って清掃に取り組めるようにする。

(評価基準 A: 達成した B: ほぼ達成した C: 現状の、まま D: 後退した)